

特集

沖縄総合事務局におけるスポーツ・ヘルスケア産業振興の取組について



ス ポーツ産業は、「沖縄成長産業戦略(平成29年3月改訂)」の中で、沖縄がヒト・モノ・カネ・情報の交易・交流拠点を位置づけられています。沖縄総合事務局は、同戦略

「アジアゲートウェイ」を目指す重点戦略産業に位置づけられています。沖縄総合事務局は、同戦略を具現化する取組として、「沖縄スポーツ産業クラスター形成事業」を展開し、平成29年8月に産学金官で構成する「沖縄スポーツ産業クラスター推進協議会」を設置し、スポーツ関連ビジネスの創出に取り組んでいます。

期待されています。さらに、スポーツの3つの主体「する」、「みる」、「支える」と、グローバル市場の変化やテクノロジーの進歩、少子高齢化といったメガトレンドとの掛け合わせにより、スポーツ産業による新たな価値の創造や社会的な課題を解決する潜在的な可能性(スポーツ・レガシー)が期待されています。

スポーツ産業の市場規模を国際比較すると、先進国などではスポーツ産業市場規模の平均が対GDP比で約3%ですが、日本は未だ1%程度です。これを受け

て、政府は、我が国のスポーツ産業の市場規模を2012年の5・5兆円から2025年に15・2兆円にすることを目指しております。沖縄は、その市場規模は770億円(2012年現在)と推計されており、今後、スタジアム・アリーナを活用したビジネスやスポーツ・ヘルスケアを基軸とした沖縄観光の新展開などの新たな投資や消費などの拡大が

成長が期待されるスポーツ産業

ス ポーツ産業は、観光、ものづくり、IoT、医療・リハビリ、ヘルスケアなどの多様な産業が融合した総合産業です。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックなど世界的なイベントの開催を契機に、新たな投資や消費などの拡大が

なビジネス創出が期待され、日本全体の目標を上回る成長が期待されています。

沖縄は、温暖な気候を生かして、野球やサッカー、陸上競技など様々な競技・種目のキャンプやトレーニングのメッカとして全国的にもその認知度は高くなっています。加えて、NAHAマラソンや宮古島トライアスロンなど、国内外から多くの方々が沖縄を訪れています。しかし、こうしたイベントは一定の季節に集中しており、地域への波及効果も限定的な点が課題となっています。

沖縄スポーツ産業クラスターの活動について

当 局は、3年前からスポーツ産業の成長性と、沖縄のポテンシャルとの親和性に着目し、スポーツ産業クラスターの形成に向けた検討を進めてきました。その成果として、昨年8月に、「沖

縄スポーツ産業クラスター推進協議会」を組成しました。

当協議会には、協議会活動を円滑に推進していくためにP D C Aサイクルをマネージメントする運営会議(議長：沖縄県経営者協会特別顧問 安里昌利氏)が設置されています。昨年度は、顔の見えるネットワークを構築する目標のもと、トレーナーや医療機関、イベント・エンターテイメント、IT分野を中心とし、合計104機関の入会がありました。また、異業種交流を目的とするシェルパ会合には延べ252名、ホットな情報をフラットに発信・交換するFacebookのグループ

**スポーツ・エンターテインメントビジネスに就事
クラスターマネージャー 中村 裕二**

メディアグループにてプロチームのスポンサーセールスやPR、スポーツイベントの運営等を担当。平成24年にスポーツマネジメントの第一人者である佐藤正一郎氏が主宰するスポーツマネジメントスクール(SMS)を受講。サッカー元日本代表高澤氏、元沖縄SVマークティングマネージャー。平成29年琉球大学非常勤助教師。

**里内底連携ネットワーキングの第一人者
プロジェクトマネージャー 友利 直子**

万葉座連携協会のネットワークマネージャーとして里内底連携者とのネットワーク化やビジネス創出に尽力。琉球大学非常勤講師や沖縄・沖縄県元コンベンションビューローの事業アドバイザーなどを歴任。国内外の里内底連携者の強いパイプを持つ。

**国内外の幅広いスポーツ連携人脈を持つ
プロジェクトマネージャー 新田 繁睦**

平成29年度沖縄スポーツ連携クラスター推進協議会 サブクラスターマネージャー/コーディネーター。リーダーを主とするスポーツ経営人材育成研修「スポーツヒューマンキャピタル」4期生。国内外にスポーツ連携ネットワークを持つ。

**W杯、五輪など大型プロジェクト経験豊富
プロジェクトマネージャー 青田 美奈**

東京のスポーツマーケティング会社にてサッカーW杯やオリンピック開催の実績に10年間に渡って從事。大型イベントから地域のローカルビジネスまでスポーツビジネスに幅広く携わる。平成29年に沖縄へ移住。コンサル会社にて那覇市の観光事業などを支援。

ハンズオン型兼任

▲平成30年度協議会事務局メンバー



▲第3回運営会議第一部の様子

成30年8月3日に沖縄スポーツ産業クラスター推進協議会第3回運営会議が那覇市上下水道局（みづぶらっさ）で開催されました。第一部では、平成29年度事業報告や、平成30年度沖縄スポーツ産業クラスター形成事業計画などについて審議し、了承されました。その結果、本年度から、これまで「万国医療津梁協議会」において

メンバーには244名が参加しています。また、当協議会事務局には、連携・融合の専門家であるコーディネーターを配置し、異業種マッチングや新たなスポーツビジネス創出のためのハンズオン支援をしていました。昨年度は、「かりゆし®ブランド」を活用したスポーツの企画・開発など、多くのビジネスの芽出しをサポートしてきました。

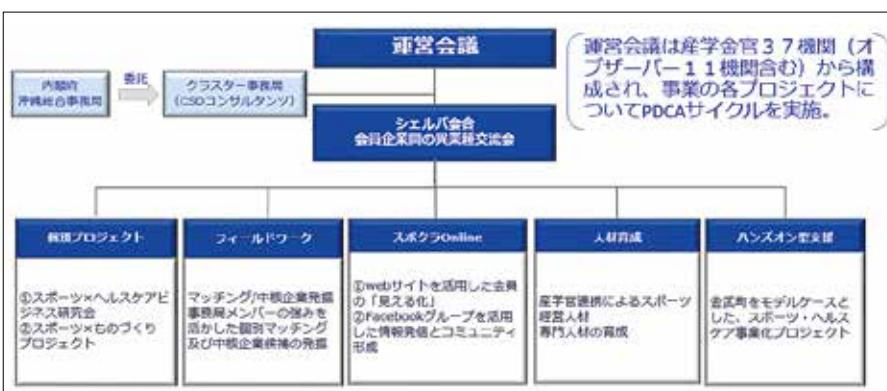
第3回運営会議の開催



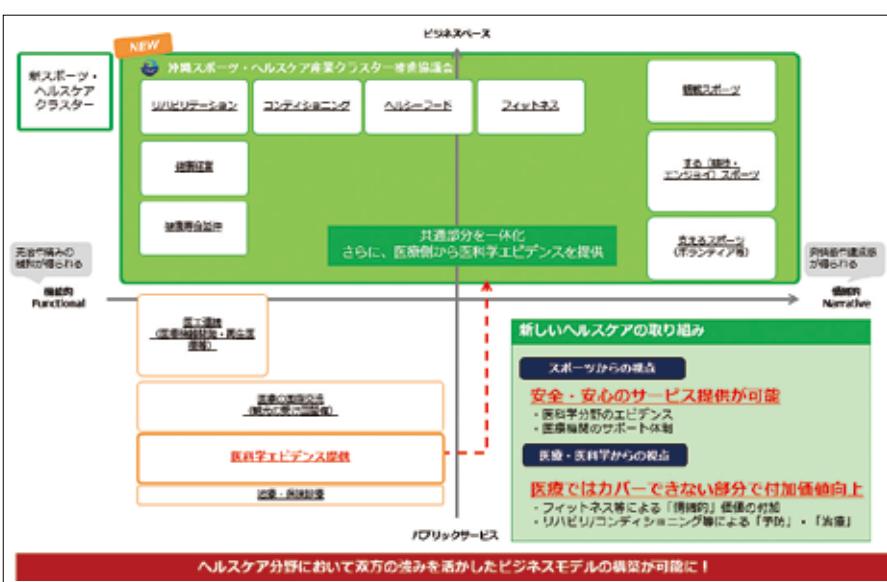
▲(株)ルネサンス創業者の斎藤敏一代表取締役会長

第2部では、株式会社ルネサンスの創業者である斎藤敏一代表取締役会長をお招きし、「スポーツ×ヘルスケアビジネス研究会」「スポーツ×ものづくりプロジェクト」と題し、基調講演を頂きました。その結果、本年度から、これまで「万国医療津梁協議会」において対応が求められているフィットネ

て担ってきたヘルスケア産業の創出を、当協議会で担うこととし、名称を「沖縄スポーツ・ヘルスケア産業クラスター推進協議会」と改めて取り組んでいきます。具体的には、スポーツを通じた観光商品の高付加価値化や健康寿命の延伸といった取組を強化し、沖縄県内及び国内外の需要を満たすスポーツ・ヘルスケアの拠点として位置づけていくことに取り組んでいきます。



▲沖縄スポーツ・ヘルスケア産業クラスター推進協議会体制図



▲沖縄スポーツ・ヘルスケア産業クラスター推進協議会の活動領域

ス業界は、レジャー産業から健康产业への脱皮に加えて、業種・業界を超えた連携を創出していくことが重要であると強調されています。質疑応答では、沖縄県内で健康経営の取組がまだ浸透していないことに対し、「経営者は社員の健康づくりが企業の成長には不可欠であるということを認識し、産業界全体で取り組んでいかなければならない」とのコメント

トがあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。内閣府沖縄総合事務局では、こうした产学研官の連携・融合を促進する取組を通じて、沖縄のスポーツ・ヘルスケア産業の振興に向け、引き続き取り組んでいます。

担当：大城、仲西、波照間
☎ 098-1866-1727

※お問い合わせ窓口